



発行所  
天理教祝梅分教会  
千歳市祝梅 598  
☎0123-29-2055  
復刊第二十八号

七月 月次祭神殿講話

本日は七月の月次祭を大教会長様ご夫妻にご参拝いただきつとめさせていただきました。ありがとうございます。うございます。

稿本天理教教祖伝逸話篇二二二 『おいしいと言うて』

仲田、山本、高井など、お屋敷で勤めている人々が、時々、近所の小川へ行って雑魚取りをする。そして、泥鰌、モロコ、エビなどをとって来る。そして、それを甘煮にして教祖のお目かけると、教祖は、その中の一番大きそうなのをお取り出しになって、子供にでも言うて聞かせるように、  
「皆んなに、おいしいと言うて食べてもらうて、今度は出世しておいでや。」と、仰せられ、それから、お側に居る人々に、

「こうして、一番大きなものに得心させたなら、後は皆、得心する道理やる。」と、仰せになり、更に又、

「皆んなも、食べる時には、おいしい、おいしいと言うてやつておくれ。人間に、おいしいと言うて食べてもらうたら、喜ばれた理で、今度は出世して、生まれ替わる度毎に、人間の方へ近うなつて来るのや。」と、お教え下された。

各地の講社から、兎、雉子、山鳥などが供えられて来た時も、これと同じように仰せられた、という。

という逸話があります。

前会長の色紙にもある「喜び上手」を指して、私たちは日々通らせていただいています。が、「喜び上手」にもなりたいものです。

この七月から色々と活動があります。これから北海道も暑い夏を

迎えますが、どうか喜び上手、喜ばせ上手の日々をお過ごしください。  
本日はありがとうございました。

布教の家週報録より

七月一日 愛知寮 高橋悟志

親神様、教祖、御霊様、いつもお見守りいただきありがとうございます。ですが、だんだんと暑さも増してきました。明るく勇んで日々通らせていただいております。

今週のニュースといえば、六月二十五日の日曜日に子供会を開催しました。子供会は、愛知寮伝統の行事で近所の子供たちを誘って様々な催し物をしています。今回は夏休みをコンセプトに射的、輪投げや綿あめ、かき氷などを準備し、楽しい一日にしようと頑張ら

せていただきました。寮長先生をはじめとする育成員、カウンセラー、教務支庁の方々がたくさんのご協力により、百名近くの方に参加していただき、大成功となりました。

した。これを励みに、毎月頑張らせていただきます



Instagram  
布教の家  
愛知寮 73期

みちの子作品展 作品展示

七月二十七〜八月六日まで開催されたこどもおぢばがえりにて、祝梅若人会から応募した作品が展示されました。参加いただいた少年会員にはご本部から届く景品を後日送らせていただきます。

ご協力いただいた少年会員、保護者のみなさま、ありがとうございます。



### 諭達拝読のススメ

茶木谷吉信

今月は諭達を読み深めるために「人を救って我が身救かる」について学ばせていただきたいと思ひます。大江大教会神殿講話から布教部長の茶木谷吉信先生（正代分教会）のお話を抜粋させていただきます。

「人救けたら我が身救かる」の出典はおふでさき第三号の、

わかるよふむねのうちよりしやんせよ 人たすけたらわがみたすかる (二号 四七)

です。これは、人をたすけたら自分が助かるのだから、自分が助かりたかったらしっかり人助けをしなさい、という意味です。人をたすけておくと、いつかその理が回ってきてたすけていただく種となる、そうストレートに解釈するの

も間違いではないですが、私が思うに、もっと深い意味をも含んでいると思うのです。それは人助けの現場にいると実感として分かることです。それは「たすけあいは時間差ではなく同時に起きている」ということです。

人をたすけるとそれが回り回って自分が助かる種となる、「情けは人のためならず」人をたすけるという情けは決して人のためではなく、回り回って自分に返ってくる、という解釈は間違いではありません。しかし、ボランティアなどの現場にいるとずっと大きなたすけあいが現実起こっている場面に出会います。それは人をたすけているつもり支援者が実は被災者に助けられているという現場です。

例えば、うつで苦しんでいる人、あるいは不登校に悩む子ども、あるいは問題を抱えて元気を失っている人、こういう人をボランティアの現場にお連れしたら、被災地から元気をもらって帰ってくる、ということはボランティアの現場でふつうに起きています。

そもそも人の心というのは誰かの役に立ったときに最高の幸せを感じるようにできています。そういうふうに関心様が設計なされて人間をお造りになったからです。助けるつもりが助けられていて、これが「たすけあいは時間差で起きるのではなく、同時に起きている」ということの意味です。

また、「人救けたら我が身救かる」を考えると、もう一つ別の視点で思い浮かぶことがあります。私たちは人だすけに向かうとき、時として相手に自分のいんねんを見せられることがあります。親神様はそういう相手に出会うように導かれているのではないかと、思うことはしょっちゅうです。

「いんねん事情。人の事は分かんせん。自分の事は尚更分かん。」

(明治二十五年六月三日 おさしづ)

なおさら分かんないという自分のいんねんを分かんないために、親神様は同じいんねんの人を見つけて、おたすけを通してそれに気づ

かせるという手法をとられるのでしよう。つまり、相手に自分の一番嫌なところ、自分がもっとも恥部だと感じているところを見せられるわけです。これをたすけ上げるためには自分の心をしっかりと見つめ、反省すること。つまり相手を通して見せられた自分の嫌な心を澄ます努力が必要となります。

諭達に仰せ頂いている

「ひたすらたすけ一条に歩む中に、いつしか心は澄み、明るく陽気に救われていく」

とはこのことを指すのではないかと思います。実に「人救けたら我が身救かる」という言葉の奥に広がる世界は広大無縁だと感じます。



※この内容はYouTube 陽気チャンネル「諭達拝読のススメ（前編）」「諭達拝読のススメ（後編）」で配信されています。全部の内容を知りたい方は、ぜひ視聴してみてください。



# こども おぢばがえり



4年ぶりに子供おぢばがえりが開催され7月28日から31日まで4日間、祝梅から子供たち5人がおぢばに帰らせていただきました。

夕張全体では45人ほどの大人数の団体となり詰所にも久しぶりに賑やかな声が響いていました。参加した子供たちの感想を紹介させていただきたいと思います。



毎日暑かったけど、いろんな思い出ができたと思う。  
楽しかった。

プールが特に楽しかったです。自由時間におみやげで奈良クッキーを買ったり、かき氷を食べたりして楽しかったです。



毎日早起きして、毎日暑くてつらかったけど、みんなで夜話をしたり、うちわでおおぎあったりして良かったです。楽しかった！



4日間の短い間でしたが、その中でも子供達の成長がみられたり、期間中に起こった出来事の中に、これからの子供達に大切な事を教えてくださっていたり、何より子供達が魂に大きなお徳を載せて帰って来たことを本当にありがたく思います。

子供達が北海道に帰って来てからのことですが、親子の会話が聞こえて来て「来年もおぢばがえりに行きたい？」とお母さんの問いに即答で「行きたい！」と、子供さんが答えていた姿が嬉しくて来年もまた、子供達がおぢばにお引き寄せいただけるように、つとめさせて頂きたいと思っております。こどもおぢばがえりの為に心を寄せ、お力添えいただいた皆様ありがとうございました。

また、祝梅では「おぢばがえりの喜びの種を子供達の育成の為に」との思いで「育成基金」があります。今回のおぢばがえりでも、「育成基金」の中からおぢばがえり費用の一部を助成させていただきました。ありがとうございました。



## 『人救けは』

◎不幸な者が、他人の世話をすると、世間の人は、「自分の頭の蠅もおえないくせに」と、冷笑するうが、しかし、蠅は自分と手ではらわずとも、躰が動けば、自然に逃げていく

○つまり、このように、たとえ、いくら運が悪くても

人のために誠をつくしていけば悪い運は、自然に自分から離れていく

◎だから救けは、悪運をはらう玉ホウキ



## 第五十二回 夏季練成会 報告

八月六日祝梅分教会において夏季練成会を少年会員八名(うち、幼児一名)、育成係十名、教会・ひのきしん十六名、総勢三十四名の参加の御守護を頂きました。今年は雨天により教会内にて実施する事となりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止も考慮し、行事内容を教話、座りづとめ練習、室内活動だけに限定して実施しました。例年とは異なり、食事やお泊りも無く短い時間でしたが、会員の皆さんが元気一杯で過ごさせていただいたひと時でした。

## あとがき

「人をたすけて我が身たすかる」について、別のお話の中で茶木谷先生は、

## 四下り目

七ツ なにかよろづのたすけあい  
むねのうちよりしあんせよ

の「たすけあい」の時、拵げた扇の上下を瞬時に入れ替える手振りをします。これはたすけた側も同時にたすかっていることをお現しくださっているのではないかと、聞かせてくださいました。

おちばがえり中はとにかく猛暑で元気な子供達もさすがにまいっていました。そんな中でもうちわで自分を煽ぐ子は殆どいません。みんな周りの人を煽いであげて「気持ちいい」と、喜ぶ姿を見て自分も笑顔になる。そんな光景があちらこちらで見られます。まさに「たすけあい」の姿ですね。毎年、そんな姿に癒されている私なのです。

ご参加いただいたみなさんありがとうございました!

